

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

2016(28)年 週 報

11月20日

「神の武具」

第3聖日

第3482号

聖
言

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。

エペソ6：13

主の弟子となる^②

第三課 基本原則 鍵となる引用を読んで考えましょう
トッドはデイダケーの中の七つの重要な命題をあげています。

四、キリスト者共同体における正しい関係のあり方が教えられている。「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい」(ローマ二ノ九、一〇、参照コロサイ三ノ一三〜一六、ピリピ二ノ一〜四)。

五、異教徒である隣人にたいする接し方が述べられている。「外部の人に対して賢明にふるまい、機会を十分に生かして用いなさい。あなたがたのことが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります」(コロサイ四ノ五、六、参照一ペテロ二ノ一二、一八)。

六、立てられている権威に対する正しい関係が明確にされている。「人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、また、悪を行う者を罰し、善を行う者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。」(一ペテロ二ノ一三、一四、参照ローマ一三ノ一〜七)。

(C-B-T-E主の弟子)

祈りのお願い

教会の後継者、神学生があたえられるように
一つ心になって互いに従順に神と人々に仕えるように

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

「悪霊との戦い」

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」（エペソ六ノ一二）

人格を持つ悪魔という考え方は、新約のあらゆるところに見られる。「さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。そして、四十日四〇夜断食した後で、空腹を覚えられた。すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石をパンになるように、命じなさい。」（マタイ4・1, 2）。「貞操のない人たち。世を愛するおとは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。それとも、「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことばが、無意味だと思おうのですか。しかし、神は、さらに豊かに恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」（ヤコブ4・7-8）。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるしのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。」（1・ペテロ5・8, 9）。「神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知っています。

神から生まれた方が彼を守ってくださいなのです。悪い者は彼に触れることができないのです。」（1ヨハネ5・18）。今日各方面であまり取り上げられていない。まして悪魔の「主権」「力」「この暗やみの世界の支配者たち」に関しては、そうである。しかし、霊的生活やそこでの戦いに関する聖書の言葉が容易に拒否してはならないし、むしろ物質的世界の理解が非常に増すことで、霊的世界の理解を必ずしも増していないばかりか、実際には鈍っていることに気付かなければならない。見えない世界について、使徒や受肉された主よりも賢いかのように思うのを慎まなければならぬ。多くの人は「悪魔」という語を非神話化して、「悪」を表す単なる言葉のあやにしてしまい、またある人々は「神」に対して大胆に反抗して、神の邪魔をする極度の悪の存在を否定する神学的立場を認識しているが、しかし彼らは純真さや正直さを悪の神秘的力がある種の技術力と知力をもって破壊しようとしている現実十分に気付いている」。現代人は、物質界の神秘に入り込み、それらを治めることができる能力を持っているにもかかわらず、具体的なことばで描写しながらも、自分たちの支配の及ばない力に直面していると感じている。（ティンデル注解書より）

二〇一六年一月一七日午後六時半 祈禱会 山本稔牧師

「神の獵犬」

「エフライムの見張り人は、私の神とともにある。しかし、預言者は、すべての道にしかけるわなだ。彼の神の家には憎しみがある。」（ホセア九ノ八）

一、世に従う民（一〜三節）

イスラエルは自分たちが行ったことの代価を払わなければな

らない。彼らは偶像礼拝をし、異邦の国々をとおして自分たちの安全を図った。神以外のものに頼り従うことは、姦淫のようなことである。神に頼らなかつたので、神が与えた地にとどまることができなくなり、エジプトとアッシリヤへ追い出される。約束の地で受けていた豊かな実ももう収穫できなくなる。そこで人安を受け入れず、さばきによつて苦しみをうけるだけである。

二、心のない礼拝（四、五節）

順序正しく、秩序を持つて、厳かに、間違ひなく、礼拝をささげるなら神は喜んでくださると考えることは、本文のイスラエルと同じである。重要なこと0は心であり、真実に神を求めることである。しかし、イスラエルの民は、神にいけにえをささげ続けてはいても、心から神に頼つてはいなかつた。神の御前に偽りは通用しない。神に偽りをもって差し出すいけにえは神に喜ばれる事はなく、何の役にも立たないのである。

三、世に頼る代価（六、九節）

イスラエルにさばきが下る日がついに来たら、そのさばきを避けることはできない。神はその日まで忍耐に忍耐を重ね、彼らに立ち返るよう叫び続けたのに、彼らが決して聞こうとせず、ついに彼らの悪に報われる日を神がくださるからである。神はイスラエルの罪と偽りの行いを覚えておられた。民が尊く扱っていたものが荒廃し、滅びを避けようとしても、エジプトに代表される異邦の国々を通してイスラエルは完全に廃虚とされた。

（リビングライフより）

来週一二月二七日はクリスマス感謝献金の約束日です。

予算は昨年に準じます。乞う祈禱と協力

森田兄湊川公園伝道参加

一二月八日（木）午後二時

衣類、下着、靴下、マスク、軍手、電池、タオル、携帯かいろ、ウエットティッシュ、電池、カセットコンロはさみ、アイマスク、路上生活される方に必要なものです。

（新しい物、及び洗濯している）

クリスマスQ&A

Q1 イエスの誕生日は一二月二五日でなかつた

実は聖書にはイエス・キリストの誕生日の記述はない。しかし、手掛かりはある。イエスの誕生の夜、羊飼いたちが放牧のため野宿をしていた。その舞台は中東のイスラエルで、羊を放牧するのは四、十一月、一二月二五日の可能性は限りなく低いのだ。実際、教会が誕生した一、三世紀頃まで、教会でイエスの誕生日を祝う行事はなかつた。実は、イエスの誕生日とされる以前、この日には、ヨーロッパで崇められていた太陽神の祭りが行われていた。その社会で、三、三三年にローマ帝国がキリスト教を公認し、関与を深める過程でしだいに太陽神を崇めること問題になっていく。しかし、人々の大きな楽しみだった祭りを禁止してしまえば、社会的な不満を生むことになる。そこで、苦肉の策として、イエスの誕生日にしてしまった、ということとは為政者の考えそうなことである。私たちは神の御子イエス様が人の子として処女マリヤよりお生まれになった誕生を毎日社会の人々に伝えましょう。

（百万人の福音参考）